

# 進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年9月30日

事業名:	いこまめぐ〜るプロジェクト事業
資金分配団体:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	一般社団法人無限
実施時期:	2020年6月〜2022年2月
事業対象地域:	奈良県
事業対象者:	①地域子ども（小中学生）②生活困窮者及びその子ども③障害者就労支援利用候補者④フリースクール、引きこもり支援利用者

## I. 事業概要

### 事業概要

本事業では①リアルな場の創造②フードバンクの確立③寄付システムの構築を実施する。①リアルな場の創造として、子ども食堂や弁当販売を通じて障害者就労や職業訓練の場として活用しながら、子どもたちの孤食の解消を担う。また寄付付き弁当を販売することで寄付の見える化と地域の福祉を地域で支える文化を醸成する。②フードバンクの確立として、地域に常設のフードバンク機能を設置することにより、タイムリーな支援を実現し、物質的な地域資源の利活用を促進させる。③寄付システムの構築として、寄付文化の醸成を目的とし寄付のハードルを下げ、寄付の窓口を増やす活動を行う。地域内福祉を充実させ、地域内資源が循環することを目指す。

## II. 進捗報告の概要

### 総括

概ね計画通りの進捗状況です。寄付文化の醸成についてはこのチロル堂でしか使えない、子ども通貨「チロル札」を立てつけることにより、想定以上の世間的注目を獲得することができています。チロル札1枚=100円は入り口のガチャガチャで購入することができます。（子どものみ）時々、2枚や3枚入っているカプセルが出てくることがあり、「まほうの駄菓子屋」の所以の1つになっています。またこの1チロルでカレーやポテトフライ、などの商品を食べることができますが、その提供を可能にしているのが地域の大人たちからのドネーションです。チロル堂で大人が購入できる商品には（弁当やカレーやドリンク等々）1チロル〜2チロルの寄付がついているという仕組みになっています。大人たちはチロル堂で飲食を楽しみながら同時に子どもたちにカレーなどを奢っているということを実現しています。この仕組みが各メディアや口コミで広がるに連れて、週末には多くの来店者が押し寄せる状況が続いています。県外からも仕組みを知りたいと訪ねて来られる方も多く、同じような活動を地元でしたいという声も聞かれています。

地域の子どもたちにも広く認知されるようになり、常連の子どもたちも増えてきました。ただ、想定外だったのは、小学生や中学生よりも、お母さんと一緒に来る幼児さんの割合が多いことでした。小さいお子さんの日中の生き場所を求めて訪ねて来られる方が多いようです。小学生や中学生は夕方の放課後に友達同士で駄菓子を買いにきてくれます。慣れた子はカウンターに座って宿題をしたり駄菓子を食べたりとくつろいでくれています。また、生活困窮の方が食べ物を取りに来られたり、不登校のお子さんと一緒に平日の昼間に遊びにきてくれる親子の姿があったりと、事情のある方も少しずつご利用されるようになっていきます。チロル堂がそういう方の行き場所になれたらと思い、スタッフが話し相手になったりもしています。

毎週水曜日は活動団体の「たわわ食堂」の日です。朝から 200 円モーニングが始まり、2 時からは軽食やおやつなどが広く振る舞われます。大人は 200 円、子どもは無料です。頂き物を上手に活用したり、この助成金から食材費も捻出することで、安定的に運営が行われています。多いときは 100 人の来店があるようです。

### Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>地域福祉の拠点をつくる①リアルな場の創造として子ども食堂が機能し、食堂や弁当販売で孤食の解消に寄与し、職業訓練と就労支援の実習の場として活用されることを目指す。②フードバンクを設置し、地域の物質的な寄付の受け皿と文化醸成の拠点になることを目指す。③寄付システムの構築として寄付付き商品と寄付チケットを普及し、地域の寄付文化が醸成されることを目指す。</p>	<p>寄付付きの弁当は 9/1～9/28 の間に 600 個販売ができています（稼働日数 22 日）チロルカレーは 42 食販売。            来店数は平日は平均で 54 人 土曜日 152 人            寄付の総額は現金＝67284 円            弁当に付帯している寄付＝約 117000 円            オープニングの話題性による収益も大きいですが、今後もこの寄付の流れを継続していけるように努力が必要。</p>

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・場の建築、設備整備</li> <li>・広報</li> <li>・寄付付き弁当の商品開発</li> <li>・駄菓子・飲食仕入れ・販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 17 日遅延したが整備は完了</li> <li>・ チラシの配布。 FB・インスタ配信</li> <li>・ 7 種類の弁当の提供決定</li> <li>・ 順調にスタート</li> </ul>	<p>プランニングから、場の建築、設備の設置、オープニングに向けての広報活動が完了。オープニングからはオペレーションの確認と活動の実施。            来店者に仕組みを理解してもらいながら、ようやく少し落ち着いた運営ができるようになった。</p>

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

##### 自由記述

想像以上の反応に驚いています。寄付の仕組みづくりに当初は高いハードルを感じていたこともあり、

- ・チロル札（子ども通貨）の設定
- ・入り口を駄菓子屋にする
- ・寄付付きの商品を購入することがそのまま寄付につながる

この仕組みを立てつけることができたことで、寄付をすることのハードルをぐんと下げることに成功しました。「寄付する」ではなく「チロる」という新しい動詞を作ること、「今日もチロってきました～」など、明るく寄付の行動を表現してくれる人が増えました。

この活動に興味を持ってくれる人たちが多ければ多いほど、子どもたちを支える寄付が増えることにつながるので、引き続き活動の認知度も上げていきたいと思っています。

また、来店してくれる子どもたちも想像以上にこの場を楽しんでくれています。駄菓子を買いに來る、ということが子どもたちにとって、イベントになり得るんだなあ実感しています。店番のお兄ちゃんやお姉ちゃんにも親しみを持ってくれている様子も嬉しいです。また、ご家庭に事情のあるお子さんが1チロルのカレーを食べに来てくれたり、保護対象の高齢者の方が食料を引き取りに来ていたり、そういう方々にとっても気楽に立ち寄れる場所になっていけたらと思います。

後期の大事な事業は、助成金完了後の自走するための収益づくりです。昼間はカレーと珈琲の提供。夜は週の3日程度常設の居酒屋が運営できたらと考えています。これからそのオペレーションづくりと、商品開発に力を入れてまいります。月間で50万円の運営費用を自力で捻出できる状態になることが目標です。

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥15000000	¥0	¥1490302	9.9%
	管理的経費	¥0	¥500000	¥0	¥300000	60%
合計		¥0	¥0	¥0	¥0	%

##### 補足説明

当初、店舗の立地的が目立たない場所にあることから、移動販売車を活用して収益事業を考えていたが、来店者も多く、移動販売車の必要性を感じない状況になった。また逆に店内設備に想定以上に資金が必要となったため、移動販売車の購入を中止し、その他の設備費に充当した。9月に変更届提出済み。

## VI. 事業上の課題

### 事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

オープニングのイベントも、その後の運営も、コロナの拡大の状況によって縮小したり、自粛したりということもやってきました。運営メンバーの意見もコロナに対して違う意見もあり、意思を統一して方向性を出していくことに神経を使っています。解放された場であることと、リスク管理のハザマで決定に苦慮しています。

## VII. その他

### 自由記述

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	有	関西テレビ「報道ランナー」 生駒 KCN 放送 奈良テレビ 毎日新聞・読売新聞・産経新聞 NHK 奈良放送局 (放送は後日)
広報制作物等	有	オープニングチラシ 500部 8月初旬作成 チロル堂お弁当チラシ 500部 8月中旬
報告書等		

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	開催しています	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	有り	